

## 週報①

### 広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2023年										2024年									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 ~1日	9月 ~8日	
カンピロバクター	63	57	67	75	49	29	47	43	65	20	24	38	25	57	50	39	41	6	11	
病原性大腸菌	103	120	108	102	56	52	49	80	102	43	61	105	92	79	76	83	70	17 (18)	9	
腸管出血性大腸菌	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3	1	0	1	2	1	6	0	0	
サルモネラ	7	7	13	25	6	12	15	6	9	4	4	2	7	5	8	12	29	4	2	
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	21	8	12	15	18	21	18	16	6	4	16	4	12	21	11	17	2	3	
黄色ブドウ球菌 MRSA	15	14	10	11	11	9	5	9	16	8	6	12	6	3	10	8	6	3	5	
腸炎ピブリオ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	4	8	2	1	0	2	0	0	0	0	0	1	3	1	5	0	1*	
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	
アデノウイルス	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	
ノロウイルス	1	1	0	0	0	0	0	0	4	9	20	10	3	4	0	1	1	0	0	

( )は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。  
\*その他は、アエロモナスでした。

## 週報②

### 広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和6年第36週(9月2日~9月8日)

#### 2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7	1		2		4		
三類	0	発生なし	0							
四類	6	日本紅斑熱	5			4				1
		レジオネラ症	1							1
五類	14	急性脳炎	1					1		
		百日咳	5	1				4		
		急性弛緩性麻痺	1					1		
		梅毒	7		1			2		4

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島市、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり3.00人の報告があり、前週と比べて減少しました。引き続き、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。

2 マイコプラズマ肺炎

定点当たり4.17人の報告があり、多い状況が続いています。マイコプラズマ肺炎は、長引く咳が特徴で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。

3 手足口病

定点当たり3.27人の報告があり、前週と比べて減少しましたが、多い状況が続いています。手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

4 百日咳

4件の報告があり、今年の累計は10件となりました。感染経路は、飛沫感染と接触感染です。7～10日程度の潜伏期間を経て、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。短い咳が連続的に起こり、続いて、息を吸う時に笛の音のようなヒューという音が出る発作を繰り返す症状がみられます。肺炎や脳症などを合併することもあり、1歳以下の乳児、特に生後6か月未満の乳児は重症化するリスクが高く、注意が必要です。予防にはワクチン接種が有効です。定期接種対象者は早めに接種を受けましょう。



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	6	0.17	0.43		小児科	ヘルパンギーナ	4	0.18	0.97	
	新型コロナ(COVID-19)	105	3.00				流行性耳下腺炎	-	-	0.01	
小児科	RSウイルス感染症	11	0.50	1.36		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	2	0.09	0.20			流行性角結膜炎	8	1.00	0.35	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	1.59	0.92		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	69	3.14	2.58			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	1	0.05	0.13			マイコプラズマ肺炎	25	4.17	-	
	手足口病	72	3.27	1.49			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.06			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	突発性発しん	5	0.23	0.28							

急増減 ↑ (前週と比較しておおむね1:2以上の増減)

増減 ↗ (前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減)

微増減 ↘ (前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減)

横ばい ⇄ (ほとんど増減なし)

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	79	70歳代・1人、80歳代・2人、90歳代・1人
5	急性弛緩性麻痺	1	1	10歳代
5	急性脳炎	1	7	10歳未満
5	梅毒	2	113	30歳代・2人
5	百日咳	4	10	10歳未満・2人、10歳代・1人、40歳代・1人